

避難の心得

1 周囲が浸水してからの自宅外避難は危険ですのでやめましょう

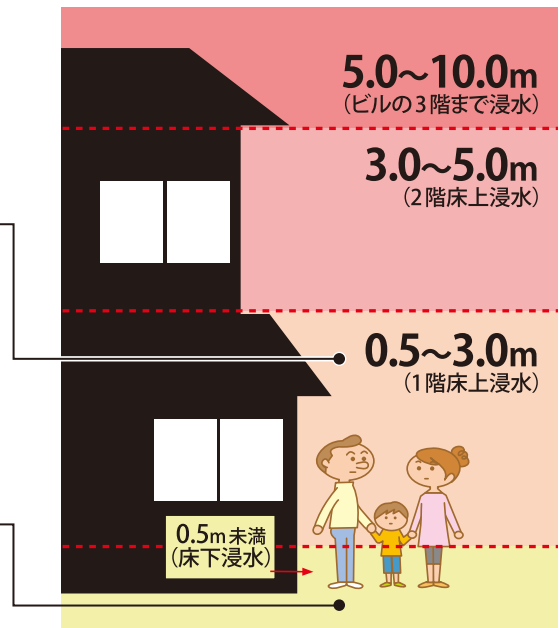
- ▶ 浸水後は様々な危険があります。
- ▶ 洪水時において安全に自宅滞在が可能か否かは、ハザードマップでご確認ください。
- ▶ 夜間の自宅外避難も危険が伴います。
自宅外避難が必要な方は、明るいうちに行動しましょう！

ハザードマップの浸水深(0.5m~3.0m未満)の場所

河川があふれると、床上~建物1階程度の浸水が予想されているということです。自宅が2階建て以上の高さの建物なら、「在宅避難も可能」です。ただ、水が引くまでの数日間、浸水の中で生活をしなければならない可能性があります。周囲が浸水する前に安全な場所(避難所や浸水しない地域)への避難が最適ですが、既に浸水している場合は自宅滞在を選択しましょう。

ハザードマップの浸水深(0.5m未満)の場所

河川があふれると、床下程度の浸水が予想されているということです。自宅が2階建て以上の高さの建物なら、「在宅避難が可能」です。



ピンクの網掛け(氾濫流)エリアに自宅が入っている場合

浸水する深さより自宅が高い建物であっても「在宅避難はできません。」木造の家屋の場合、建物が流される危険があります。情報を集めて、周囲が浸水する前に安全な場所(避難所や浸水しない地域)への避難が必要です。浸水が始まっている場合には、移動できる範囲で、高くても少しでも頑丈な建物に避難する等してください。

氾濫流 家屋倒壊等氾濫想定区域

堤防の決壊等が発生した場合に、家屋の倒壊等の危険性がある区域の目安を示すものです。



河岸侵食 家屋倒壊等氾濫想定区域

河岸が侵食された場合に、家屋の倒壊等の危険性がある区域の目安を示すものです。



2 身の安全を確保しましょう

- ▶ 在宅避難中は絶えず情報を集めて、今どのような状況なのか確認しましょう。
在宅避難に必要なものや貴重品などを、2階以上に移動させましょう。

3 水道・電気・ガス・トイレなどのライフラインの停止に備えましょう

- ▶ ライフラインの停止は長期に及ぶ可能性もあります。ライフラインが復旧するまでに備えて、一週間程度の飲料水や食料、トイレ用品などの十分な必需品を準備しておきましょう。



トイレや床下収納など、思わぬ場所から浸水する場合があります。

非常持ち出し品を準備しておきましょう

備蓄には2種類あります。緊急避難時に必要な「非常持ち出し品」と、公的な支援を受けるまでの「備蓄品」を備えましょう。

日頃から
必需品を
検討



普段から
使える
備蓄品

